



**PHILIPS**

Seminar



## 第45回日本救急医学会総会・学術集会 ランチョンセミナー 18

日 時：2017年10月25日(水) 12:30～13:30

会 場：第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 タワーウイング 2階「蔦」

〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68

### 心不全パンデミックにどう立ち向かうべきか？ 救急に携わるすべての人に共有しておいていただきたいこと

座長：坂本 哲也 先生（帝京大学医学部 救急医学講座 主任教授）

演者：佐藤 直樹 先生（日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科 教授・集中治療室室長）

#### 参加方法

〈ランチョンセミナーは整理券制です〉 配布日時：10月25日(水) 7:00～12:00

配布場所：リーガロイヤルホテル大阪 タワーウイング 3F ロビー

当日開催セミナー分のみ発券。整理券がなくなり次第、配布を終了いたします。整理券は、セミナー開始直後に無効となります。

共 催 第45回日本救急医学会総会・学術集会 / フィリップス・レスピロニクス合同会社

# 第45回日本救急医学会総会・学術集会 ランチョンセミナー 18

2017年10月25日(水) 12:30~13:30 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 タワーウイング 2階「蔦」

## 心不全パンデミックにどう立ち向かうべきか？ 救急に携わるすべての人に共有しておいていただきたいこと

佐藤 直樹 日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科 教授・集中治療室室長

急性心不全患者は、2025年問題に関連して益々増加し続け、心不全パンデミックとなることが想定されている。こうした中、救急に関わっている医療スタッフすべてが急性心不全治療に対する時間軸を念頭においた治療コンセプトを共有しておくことが必要である。心不全の病態には、心原性肺水腫、全身的なうっ血、低灌流の3つの病態があるが、特に心原性肺水腫は一刻を争うほどの時間軸を念頭に置いたアプローチが求められている。ガイドラインでも推奨されている酸素化改善としての陽圧呼吸管理の重要性を認識しつつ、いかに実践するかが重要である。このアプローチが遅延すれば、多臓器の予備能を低下させ、予後不良につながる。しかしながら、救急の場では、患者は独歩で退院していくために医療側として、急性期治療の良し悪しとその後の予後に影響を与えているとの認識が十分にされていないことが多い。このようなピットフォールについて、その根拠を含めて解説し、目の前に迫っている心不全パンデミックにいかに立ち向かうかを救急に携わる皆様と共有したいと考えている。

<b>学 歴</b>	1987年3月	日本医科大学医学部卒業			
	1987年6月	同大学 第一内科入局			
	1992年7月~1996年8月	米国ハーバード大学留学 (Stephen F. Vatner教授)			
	1999年7月	日本医科大学付属病院 集中治療室 出向			
	2000年9月	日本医科大学 集中治療室 医局長			
	2001年10月	日本医科大学 集中治療室・内科 講師			
	2011年4月	日本医科大学 内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合医学部門) 准教授			
	同年	日本医科大学 武蔵小杉病院 内科・循環器部長			
	2012年4月	日本医科大学 武蔵小杉病院 循環器内科 病院教授・集中治療室室長			
	2016年10月	日本医科大学 医学部循環器内科 教授			
<b>賞 与</b>	1994年	Melvin L. Marcus Young Investigator Award Finalist in Cardiovascular Integrated Physiology, 67th Scientific Sessions in American Heart Association			
	1994年	The Samuel A. Levine Award from American Heart Association, Massachusetts Affiliate.			
	1999年	平成10年度東京都医師会医学研究賞			
	2014年	Best doctor in Japan 2014-2015			
	2016年	Best doctor in Japan 2016-2017			
<b>所属学会</b>	日本循環器学会(代議員)、日本集中治療医学会(理事、評議員)、日本心不全学会(評議員)、日本心臓病学会(評議員、FJCC)、日本冠疾患学会(評議員、FJCA)、日本肺循環学会(評議員)、日本内科学会、日本心血管インターベンション治療学会(代議員)、日本Shock学会、European Society of Cardiology (Heart Failure Association): FESC American Heart Association, American College of Cardiology,				
<b>認定医・専門医</b>	循環器専門医、集中治療専門医、総合内科専門医・指導医				
<b>職 務(院外)</b>	2008年	日本循環器学会 循環器疾患における抗凝固・抗血小板療法に関するガイドライン(協力員)			
	2011年	日本循環器学会 急性心不全治療ガイドライン作成(協力員)			
	2007年~2011年	東京都CCUネットワーク事務局			
	2016年~	日本循環器学会 心不全治療ガイドライン作成委員会委員			
<b>学会幹事・委員</b>	日本循環器学会	教育研修委員会委員	2012年~	(院内)	
		IT/Database委員会委員	2014年~2016年	2009年~2011年	日本医科大学治験推進室室長
	日本心不全学会	チーム医療推進委員会幹事	2012年~	2011年~	日本医科大学武蔵小杉病院 診療録管理室室長
		出版・編集委員会委員	2012年~2015年	2012年~	日本医科大学武蔵小杉病院 医師支援室室長
		広報委員会委員・予防委員会委員	2014年~	2014年~	日本医科大学武蔵小杉病院 保険委員会委員長
		国際交流委員会	2016年~	2015年~	日本医科大学武蔵小杉病院 副院長、
	日本集中治療医学会	担当理事	2016年~	2015年~2016年	日本医科大学武蔵小杉病院 研修管理委員長、
		CCU委員会委員	2014年~		日本医科大学 教務委員会委員
		教育委員会委員	2014年~	2016年~	日本医科大学武蔵小杉病院 医療安全委員会委員長
		プログラム委員	2015年		
	日本心臓病学会	国内交流委員会	2016年~		

フィリップス・レスピロニクス合同会社

〒108-8507 東京都港区港南二丁目13番37号フィリップスビル

www.philips.co.jp/healthcare/

